



ソロモン時代の地面

旧市街のユダヤ人地区の真新しいシナゴグの側を通り、5,6m低く掘り下げたソロモン時代の地層が見える場所に出ました。壁は小さい石を丁寧に積み重ねて作られ、地面部分はごろごろした石が転がっているだけでした。これが 3000 年前の土地だったのか、どんな風に用いられていたのだろうか、時の隔たりと共に実感できません。人の命の短さと比べながら、不思議な気分になりました。



ローマ時代のカルド

また、そのすぐそばに、ソロモンから 1200 年を経た、エルサレム陥落後の古代ローマ時代の大通り、カルドの遺跡に出ました。ヨルダンにビザンチン時代のエルサレムの地図が記されているモザイクのマダバ・マップが残っていて、これで、古代のエルサレムの様子を推測できるとのことでした。この通りには大理石の柱が並び、敷石も大きく整っています。復元想像図もあり、昔の繁栄、栄華の様子が分かります。



鶏鳴教会

シオン門から出て、シオンの丘の東の斜面に立つ鶏鳴教会を見学しました。ここは大祭司カイアファの屋敷跡とも言われています。イエス様がゲッセマネで捕縛された後、人々はイエスを捕らえると、大祭司カイアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや長老たちが集まっていた。(マタ 26:57)と記されています。ペトロも密かについて行き、弟子ではないかと疑われ、激しく否定し、イエス様が「はっきり言っておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」(マタ 26:34)と言われたように裏切った

場所とされています。イエス様の時代には最高法院はローマによって解体させられていて、法的に機能できなかったようですが、密室で、神殿側の独断で、裁判が行われたのでしょうか。

ビザンチン時代にここに最初に教会が建てられましたが、何度も破壊され、現在の美しい教会は 1931 年にできました。礼拝堂内部には最後の晩餐、ゲッセマネの祈り、裏切り、不当な裁判、侮蔑と暴力などを描いたモザイクが壁面に飾られていました。地下にはビザンチン時代のモザイクや壁に掘った十字架があります。また、地下牢(貯水槽の再利用)がありました。ここに繋がれたのかと思われる跡もありました。大祭司は屋敷に地下牢も備えていたのでしょうか。恐ろしいことです。



オリーブ山への道

ここの斜面を下ると、ヒノム、キデロン谷になり、オリーブ山へとつながります。その石段は、イエス様が登った時のままの、昔の姿を留めているとのことでした。ペトロはイエス様の言葉を思い出して、そして外に出て激しく泣いたとあります。この石段の横に、プレートを見つけました。

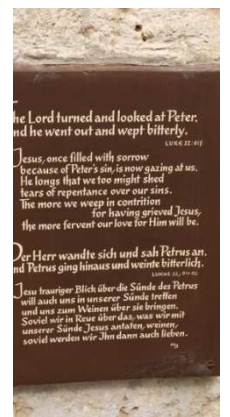
イエスはペトロの罪のゆえに悲しみに一杯になった。

しかし今 私たちを見つめておられる。そして、ペトロのように、

おのれの罪を悔いる涙を流すことを願っておられる。

イエスを悲しませたことを悔いて泣けば泣くほど、

イエスへの愛が熱くなるであろう。



鶏鳴教会のプレート